

The background of the cover is a historical map of Manchuria, showing various cities, rivers, and administrative boundaries. The map is rendered in a sepia or aged paper tone. Overlaid on the map are several text elements: a large vertical title on the right, a smaller vertical title in the center, and the author's name on the left. The publisher's name is at the bottom center.

# 日露領土紛争の根源

## 日露領土 紛争の根源

長瀬隆

長瀬隆

草思社

草思社

樺太（サハリン）の南半分は日露戦争の結果ロシアから日本に割譲され、第二次大戦の結果、ソ連に返還されたということになっている。しかし、これは理に叶ったことなのか。敗戦によって樺太から引き揚げてきた著者は早稲田の露文科に学び、さらに日ソ貿易の商社に勤務しながら、著者の心は晴れることがなかった。チエーホフの、いま流に言えばノンフィクション作品の傑作『サハリン島』にある「サハリンの処女探検の権利は疑いもなく日本人に属し、日本人が最初に南サハリンを領有したのである」という記述が心にひっかかっていたからである。ところが、著者はついに発見したのだった。十九世紀の半ば、ロシアは早くもシーボルトの『日本』を改竄することによって樺太領有への触手をのばしていたことを。

## 1 シーボルト『日本』露訳の改竄 7

間宮林蔵の業績を世界に紹介した『日本』／地図を見て「日本人にしてやられた！」と叫ぶ／ロシアで無視されたシーボルトと間宮／日露下田条約の不平等条項を継承／日本人の処女探検・領有を認めたチエーホフ／露訳で抹殺された『日本』の核心部分／間宮を称賛したクルゼンシテールン／強力な、善良ならざる意志の仕業

## 2 チエーホフ『サハリン島』における抵抗 33

『サハリン島』邦訳の異同と底本の改竄／『日本』を踏まえて書かれた『サハリン島』／対外拡張と国内弾圧は表裏一体／流刑の調査と、日本への憧憬／日本の平和的開国を図ったシーボルト／宰相ネッセリローデの思惑／共有地と定めて略取するのが常套手段／「地の果て」だったサハリン島／半島のように錯覚させる地形／シーボルトを下敷きにした観察／「ロシア人の英雄叙事詩」の欺瞞／シーボルトの名を秘す異様さ／『東韃紀行』を読んだ上での韃晦／南サハリンと日本への視線／「学びは光、歴史は選べるものではない」／コルサコフⅡ大泊の変遷／ネヴェリスコイの独善的な功績誇示／サハリンなる地名は誤解の産物／原日本地図について教えた人物

## 3 日本領事久世との邂逅、そして日露戦争 91

「居心地がよく温かい」日本領事館で／ロシアの領土的野心を暴露／「日本人が最初に南サハリンを領有」／「なんと正義や和解が少ない」ロシア／「サハリン島」から「桜の園」まで／戦争と革命に突き進むロシア／日本に同情し、革命を待望したチエーホフ／失地回復に終わった日露戦争

## 4 エンゲルス「ロシア・ツァーリズムの対外政策」 113

チエーホフ『三人姉妹』とポーランド独立運動／ツァーリの外交団、強さの秘密／「祖国をもたない」ブルジョワ的な啓蒙運動／「世界制覇」をめざしたエカチェリーナ二世／ナポレオンには西方、アレクサンドルには東方／コンスタンチノーブルの奪取が悲願／ニコライを操ったネッセリローデ／一八四八年、マルクスとツァーリズム／ツァーリズムの末期を告げる敗北／英露の対立・抗争と日本／ヨーロッパの平和にはロシア革命が必要／逆さまに描き出された日ソ戦争

## 5 キリチェンコの抑留批判とスラヴィンスキーの中立条約侵犯批判 147

肯定されたツァーリズムの対外政策／ソ連に無批判に追随した左翼的歴史家た

ち／無視されたソルジェニーツィン『収容所群島』／服役日本人の再審を求めたキリチエンコ／八月一五日以降の不法な戦闘／日本将兵は捕虜でなく強制抑留者／戦勝のツケが回って停滞、崩壊へ／中立条約侵犯の誤りを認めたスラヴィンスキー／日独伊枢軸への参加に同意したスターリン／ソヴィエト帝国主義と愛国主義／松尾隆とドストエフスキー／ペレヴェルゼフ問題／ソ連で向き合ったヒロシマ、そして樺太

6 日本の戦勝はロシア革命を支援した——ポクロフスキー『ロシア史』から 181

ソ連への期待と、樺太の忘却／ビデオでみた映画「氷雪の門」の衝撃／マルクス、エンゲルスのツァーリズム批判／ポクロフスキー『ロシア史』が描く対日戦争前夜／朝鮮における露日の衝突と『日本』露訳／ツァーリズムの降伏、革命の序曲

7 スターリンによる歴史の歪曲 205

樺太の日本語新聞「新生命」と勝野金政／ロシア人の愛国心に救われたスターリン／禁圧されたペレヴェルゼフのドストエフスキー論／理由なき対日戦を正当化する論理／若き日の自己に反する日露戦争報復論／第一次革命の敗北を生かしたロシア革命／日露戦争を歪曲したスターリン・メッセージ

8 現代サハリン史学界の動向——ヴィソコフの新説 233

ソ連崩壊を待つて初めて解決しうる問題／恵須取での同窓会を報じた地元紙の記事／自由主義史観によるサハリン史の把握／郷土史家フェドルチュークの「樺太のロシア人」／サハリン・クリル史の全面的な叙述／八月一五日以降の南樺太攻撃の非を認める／占領、編入、国教化の生々しい記述／「日本人とロシア人は一緒にはやってゆけない」／イデオロギーの宣伝と政治工作／日本人の破壊工作防止とスパイ協力者／先住民、朝鮮人、ポーランド人の引揚げ／領土問題と抑留問題は単一の切り離しがたい問題／「全北方領土が、決定ずみの問題ではない」

9 レーニンの真正な日露戦争観——大江志乃夫と和田春樹の誤り 283

岡田嘉子「赤色ロシア」越境脱出事件の顛末／チェーホフの真意をねじ曲げる和田春樹／先進的な国と立ち遅れた国との戦争／バルチック艦隊の敗北を悲しむ大江志乃夫／民族問題の理解を欠いた幸徳らの反戦運動／日本の敗戦は英米かロシアの従属国に帰結

ソ連に配慮して上映中止された「氷雪の門」／「皆さん、これが最後です。さようなら」／「生キタカッタ」九人の乙女たち／破産した二島先行返還論と和田春樹／祖国に媚びなかつたチェーホフと強盗プロクルテス／文学の問題としての「わが内なる樺太」

追記——サンクト・ペテルブルグとヤルタから帰って

325

主な引用・参照文献

331